

セミナー「不登校の子どもの気持ちと進路選択」実施報告について

区内在住・在学の中学生とその保護者、不登校生徒の支援者を対象に、板橋フレンドセンター元通級生の体験談や高校の先生からの情報提供・アドバイスを聴き、自分に合った進路選びの参考とするためのセミナーを下記のとおり開催した。

記

- 1 日時 令和3年7月24日（土） 午前10時～12時
- 2 場所 教育支援センター研修室
- 3 講師 板橋フレンドセンター通級の不登校経験生徒（高校2年生）、
東京都立桐ヶ丘高等学校校長、
東京都認可私立通信制高等学校（大原学園）教頭、
広域通信制高等学校（CLARK NEXT Tokyo）入試広報担当
- 4 内容 第1部 不登校経験生徒による体験談
①作文の朗読
②対談
第2部 中学卒業後の進路の選び方
①東京都立桐ヶ丘高等学校（チャレンジスクール）紹介
②東京都認可私立通信制高等学校の制度紹介
③広域通信制高等学校の取り組み紹介
質疑応答
- 5 参加者 53人
- 6 備考

セミナー終了後のアンケート（回答47人）では、次のような感想を得た。

- ・自分と同じ不登校の子の話を聞けて、すごく安心しました。1人じゃないんだなと感じることもできて、とても良かったです。（中学生）
- ・インターネットで調べることはあるが、直接体験談を聴くことは初めてなので、とても貴重でした。今後の親子関係の参考になると思います。
- ・子どもを信じることの大切さに気づきました。

- 子どもの立場から気持ちを詳しく聞けたのが、大変良かったです。子どもと一緒に参加したのですが、何か1つでも心に響いてくれたら良いと思います。
- 周りのサポート、特に保護者の理解がいかに大切わかりました。不登校の娘がいますが、温かく見守ろうと決意できました。
- 「小さい目標を達成していく」「頼れる大人」のキーワードが、大変参考になりました。
- 周囲のサポートは重要ですが、強制ではなく、当人が前向きな意志や希望をもって進路等を自ら決定するためのサポートが大切だと感じます。
- 子ども世代の常識や価値観を知ることの大切さや理解しようとする姿勢の大切さ、焦らずに見守ることができるといいと感じました。
- 「中学の担任が怖かった」という話は、わが子と同じでした。担任は選べないので、理解してくれる先生や頼れる人（SC やフレンドセンター）を見つけるという話がよかったです。
- とても正直に不登校の子どもの心情や、教員、SC のことを話されていてこちらの学びにつながりました。（支援者）
- 不登校生徒対象の種類異なる高校の代表が集い、説明してくれることにより、比較が出来てわかりやすかった。
- 個別の相談会があるといいと思いました。学習面での遅れ、サポート校や、エンカレッジスクールのこと、通い続けられるサポート体制のことなど、個々で違うと思うので…。
- まず、「不登校」を正しく理解し、フレンドセンターのような場所があることを多くの人に知ってもらいたいと思いました。また、幅広い選択肢があることを認める大人が増える必要があると思います。



担当 教育支援センター 教育相談係
☎ 3579-2195